

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292300163		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター富士水戸島 グループホームニチイのほほえみ		
所在地	静岡県富士市水戸島 343-4		
自己評価作成日	平成31年2月8日	評価結果市町村受理日	平成31年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2292300163-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成31年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ニチイの社是である、誠意、誇り、情熱を持って利用者様には、いつも新鮮な気持ちで接したい。認知症の方を介護している私達は、利用者様にはいつも初対面なのです。そして常にこの方は、どんなこと望んでいるのか考え見極める脳力が必要です。それを教えてくれるのがニチイのき養育であり、仲間です。これからも仲間と共に利用者さまの力になれるように精進して行きます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階建て建物の2階に当事業所があり、1階に同法人が運営するデイサービス事業所が入居している。日当たりの良い明るい室内で、和やかで明るい雰囲気の中、利用者はゆったりと過ごしている。本年の事業所目標である「初心を忘れずに 安全第一」を、夜勤者が毎日「介護日誌」に記入して徹底をはかっている。勤務の長い管理者や職員は、マンネリ化しないように目標を共有しチームワーク良く実践を目指している。運営推進会議は、事業所の建物と駐車場の各オーナー2名と民生委員2名、家族に加えて市職員と地域包括支援センターが交代で参加している。参加者から意見や質問、助言が出て相談に乗ってもらっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誠意、誇り、情熱を心におき月曜日の朝礼には、社是と経営理念の唱和をしています。そして、会社を通じての社会参加の道を日々模索しています。	社是と経営理念を食堂に掲示し、月曜日の朝礼で唱和している。本年の事業所目標である「初心を忘れずに 安全第一」を、夜勤者が毎日「介護日誌」に記入し徹底をはかっている。職員はこれらを共有し実践を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に1度の運営推進会議におきまして、地区の民生委員の方2名と地元のオーナー様2名市役所から介護保険課から1名か、包括の方1名のどちらかに来て頂いています。	事業所の建物と駐車場のオーナー等を通じて町の催し物への参加案内がある。散歩時の近隣住民や外食時のレストラン、寿司屋の主人や従業員との交流がある。楽器演奏や歌・舞踊等のボランティアを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会議を通じ認知症のことについて私達の知識から毎回1つづつ資料にして、対応、虐待の見つけ方などお話をさせて頂き連絡欲しいと頼みました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、利用者の日々の活動入所、退所者のごこと又あまり言いたくないような事故報告、職員の入退所に至るまで話します。又オーナー様達より災害時にどこに逃げたらいいのかなど、昔からの土地情報を聞き参考にしています。	奇数月の最終土曜日に開催している。事業所の建物と駐車場の各オーナー2名と民生委員2名、家族2～3人に加えて市職員と地域包括支援センターが交代で参加している。参加者から意見や質問が出て、相談に乗ってもらっている。助言や地域からの情報提供もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市との連携については、利用者の状況報告により空き情報を流して頂いたり、又事故報告書の提出、運営推進会議の内容報告も毎回しています。	運営推進会議には市職員と地域包括支援センターが交代で参加している。市のグループホーム連絡会に参加し、研修会を受講したり職員同士の交流を行い、他のグループホームとの交流会も開催している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員で身体拘束の対象となる具体的な内容について学び、介護をしている中で禁止行為にならないようお互いに注意し合っている。各個人の部屋は施錠していない。	月1回開催するホーム会議の中で、事業所の利用者の現状に沿った研修を実施している。センサーやセンサーマットは使用せず、身体拘束をしない介護を徹底している。入口は1階と2階ともに夜間以外は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について年2回ほど職員研修をしている。利用者同士でも暴力や暴言が出ないように全職員でも注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月に1回のホーム会議にていろいろな研修を行なっている中、成年後見制度については、3月を研修予定にしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時二時間を頂き、契約書、重要事項についても全文読み上げ説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回各家族に顧客満足度アンケートを送りそれにより家族の意見が直接本社に行くようになってきている。その意見を基にスタッフと会議をする。	面談の多い家族や運営推進会議に参加する家族は来訪時に、来訪が少ない家族には電話で意見や要望を聞いている。法人として年1回家族アンケートを実施しており、その結果を職員間で共有し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のホーム会議、又朝礼時に出た意見も良いと思ったことは、どんどん取り入れる様にしています。	毎月1回、原則として下旬の金曜日にホーム会議を開催し、自由な雰囲気の中で職員から多くの意見が出ている。予算面の制約はあるが、良い意見はできる限り反映させるように努力している。今回の自己評価は職員全員の意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	当社にはスキルアップの制度があり小テストにより給与の算定をし、又3月には各拠点のそれまでの頑張りにより一時金が常勤、非常勤に関わらず支払われます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特に新人には会社からのおさらい学習があります。他のスタッフは、会社からの研修に出られる方が出てそれをホーム会議で、他のスタッフの前で発表学習して頂きます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富士市には、グループホーム協議会と言うグループがあり、年4回の定例会、年1回の交流会、年1回の研修会の機会が有りそれも活用させていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初めには、特に気を使い、いろいろな話をさせて頂き一つ一つ確認をしながら介護を行なってゆきます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時には家族も心配されていると思いますが、それにも増して困っているから入所された訳で、家族の気持ちも十分聞き取り介護に反映させていくようにする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向を伺いながら、入居生活について出来るだけ意向に添えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は、職員より年齢も高く経験もある。いろいろな話をして良い処悪い所今までの経験を聞き、良い話は、お手本にしたいと思います。又優しい言葉を掛けて貰うと涙が出ます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の希望を管理者に伝え、管理者から家族報告、又家族からの希望もうまく利用者伝える役目になり潤滑な関係を支えます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	このホームに来てくれた方は分かると思いますがどんな方でも家族の了解頂いた方は面会して頂くようにしています。	友人や昔からの顔なじみ、いとこやはとこ、近所の方等と来訪者は多い。家族同伴で外食や墓参り、花見等に出かけたり、自宅に帰る利用者もいる。それぞれの利用者に対して関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の認知状態の把握又その方の性格もありなるべく仲良くして頂ける方を集めるよう気をつかいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もたまには電話をしその後の状況確認をしたり家族との対話をして今の状況の不満など聞き手に回る。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見を聞き、ご家族に意見を伺い暮らし方の希望や意向を検討している。	利用者に寄り添い話を良く聞く事で、本人としても事業所が安心して過ごす事ができる居場所であると気付くように努めている。家族来訪の折も様子を丁寧に伝え、本人の思いを引き出して支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にこれまでのことを伺い、御本人にも意見が聞ければ伺い出来るだけ把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意見を聞き、ご家族に意見を伺い暮らし方の希望や意向を検討している。様子を見たり、介護職員に聞いたり、介護記録で確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を伺いながら、入居生活について出来るだけ意向に添えるよう努めている。	介護日誌には、本人の日々の様子や関わった職員の意見等の詳細が記録されている。居室担当者により日常生活支援シートにまとめられ、カンファレンス時の資料として評価している。医師等の意見と共に計画作成者により見直される。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を介護職員と共有しながら、日々見直しや確認をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のご家族の要望に、本人のご様子を見ながら無理のない状態でこたえている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	早川沿いは、地域の方々が美しく保存されている場所であり憩いの場でもあります。スタッフと供に季節の花々を楽しみながら散策して頂く。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の提携医はあり、往診を受けられる状態になっている。個別のかかりつけ医には、ご家族と一緒に受診をして頂いています。	事業所の協力医との提携で往診による定期的な受診が可能で、別の医院に通う1名を除いた利用者のかかりつけ医となっている。週1回、訪問看護師による健康管理のための訪問もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と訪問看護師との連携はしている。緊急や状態変化の際は連絡を取り合っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族や病院からの要請に対してこたえている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や医療と連絡を取りながら、介護職員で支援方法を確認しながら、地域関係者にも運営推進委員会などで理解してもらるように説明している。	重度化や終末期に向けた事業所の指針については入居時に丁寧に説明しているが、法人の方針で看取りは行っていない。医療処置を伴わない利用者には、訪問看護師の導入などを含め長い期間事業所に留まれるように、職員一同が状況を共有して支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応の連絡表の確認をしてある。訪問看護師にも緊急時の対応を相談している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練をおこなっている。運営推進会議で地域の避難訓練の対応を聞いている。食事の備蓄はある。	年2回、防火の法定訓練を開催している。諸災害時の指定避難場所までは1キロ強あり、利用者の現況では無理と考え、事業所同一オーナー所有の隣設共同住宅4階を避難場所としている。備蓄品チェックも怠りない。	地域住民との関係は良好で、建屋や駐車場オーナーの助言で災害対策などを講じているが、地域の自主防災組織との関係が明確になっていない。組織との関係が重要と考え、密にしておくための策を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の生きてきた足跡を考慮しまず敬語で話し、利用者様のプライバシーに触れるような言葉は口に出さない様にする。	全職員は、人として尊厳を重んじプライバシーを損ねない対応の意義を研修で理解している。昔の話を良く話題にする利用者に対して触れてはならない事柄もあり、生活歴などを理解して尊厳を傷つけない対応を意識している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のやりたい事を聞き、それが出来る様なるべく動いてみる。本人がやりたい事は出来なくても1度はやってみよう。そして本人に納得してもらおう。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応マニュアルはありますが、その日の天気または、季節によっても利用者の体調ペースは変わる為その日のことは、その日に決めます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	人それぞれ好みの服装やお洒落もあり、希望の方には、スタッフがマニキュアを塗っています。そして偶数月には、美容師さんも来てくれ自分の好みをいろいろ話してカットして頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事も今日のメニューをホワイトボードに明記し、食事前に皆さんに説明して食欲を煽ります。又テーブルの位置も時々変えて雰囲気の変化にも気を配っています。	基本的に法人の栄養士から届く献立表を参考に、食材を準備している。厨房へ入る職員は、必ず味見をして確認してから食卓に配膳する事を習慣にしている。当日のホワイトボードには夜勤者が前日考えた夕食メニューも記されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	認知が進むにつれなかなか食事が上手に取れない方が出てきます。刻みにしたり、ミキサー食にしたり又水分は、ミルク、ジュースにしたり、トロミを付けたり、栄養食品等も取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシや口腔ケアシート、スポンジブラシなど一人一人に合わせた口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は1人ずつパターンが違う為、その都度声掛けをしたり、トイレ誘導をして利用者の習性を生かしなるべくトイレでの排泄を支援しています。	排泄に関する日々の記録から各利用者のパターンや支援状況を理解している。日中は本人の自尊心を傷つけない適正な誘導をして、快適な日常生活が送れるよう自立への支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因食事、運動、水分の摂取に気をつけています。又野菜も十分に取って頂き、朝は果物屋は乳製品とメニューにも対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番は、一応スタッフの方で決めています。入浴前に体調または、本人の希望を聞き次の日または、午前から午後に変えたりしながら支援しています。	週2回の入浴を基本に支援している。日頃からの会話や入浴を支援する中での話から、本人の入浴に対する思いを理解しており、その人なりの支援ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者も1日中ホールに居ると疲れる為夜の睡眠に支障がない程度のお昼寝はして頂きます。そして日中の体操レクレーションなどで夜の睡眠を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬のことは、まず入所時その方の病歴状況服薬の説明をスタッフ全員にサマリーで報告し、その後変わった時は、その都度朝礼や受診記録にて通達する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	なかには仕事をしたいと言われるかたがいる為、掃除の手伝い食事前のテーブル拭きなどをお願いすることもあります。又皆さんの好きなケーキなども誕生日、クリスマス、ひな祭りなどイベントの時に食べていただきます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日利用者とお話をしたり、天気の良い日には散歩に行ったり、希望があれば家族に外出をお願いしています。	事業所の前を流れる河川の土手には、桜並木や四季の花々が植えられた散歩道等があり、天気の良い穏やかな日の外出支援は季節感ある絶好の場所となっている。近くの公園まで行って地域の人々と交流する利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ゲームなどでお金の使用をシュミレーションしてなるべく外出の希望を適えてあげたいと思っっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に合わせて家族に先に電話し利用者様の希望を伝えてお話し頂くなどしている。又手紙などは家族の方が持参して見せてくれます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除の徹底を日々しています。それは全ての部屋に及び、トイレは自動開閉、暖便座使用、そして、毎月利用者による貼り絵を制作して頂き、四季を感じて頂く。	採光が良く明るい。空調完備のリビングを中心に居室に至るまで、清掃が行き届き清潔感がある。壁には季節を感じさせる利用者の作品が掲示され、利用者はテーブルを囲んでレクリエーションに参加したり、思い思いに過ごしたりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	なるべくお話の合いそうな方同士を隣の席にして少しでも過ごしやすくし、気まづくなったら席替えなどをして距離を置くよう心がけます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご本人の慣れ親しんだ物をおき、しかし足元には何も敷かない様にします。つまづき防止のためです。	居室への生活用品の持ち込みは、慣れ親しんだ生活の延長として安心して落ち着いて過ごせるような品々をと願っている。家族や居室担当者と一緒に、クローゼットの使用で事故が起こらない様な環境整備を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	いろいろな活動をとうしその方の生活性格、癖などの十分な理解により見守りにも余裕を持って介護出来るように心がけます。		